

研修名	令和5年度新潟県受託事業 在宅看護（入退院支援）研修会				
領域	訪問看護	会場	新潟県看護研修センター	資料代	会員 1,100 円 非会員 2,200 円
対象	<p>対象者；病院・診療所・訪問看護ステーション等に勤務する看護職員</p> <p>全日程；募集 20 名 応募 17 名（会員 14 名・非会員 3 名） 修了 16 名</p> <p>公開講座；延べ 27 名</p> <p>合計；延べ 77 名（うちオンライン受講延べ 34 名）</p>				
日時	令和5年5月16日（火曜日）～10月28日（土曜日）9:45～15:45（5日間）				
ねらい （目標）	<p>1. 地域連携に必要な知識を学び、在宅で継続されている医療・看護サービス、支援システムの実際を知る</p> <p>2. 療養者および家族が安心して退院できるような支援方法を学ぶ</p>				
講師	<p><b>【講義】</b></p> <p>1.地域ケアシステムの理解； 井上 智代 新潟大学大学院保健学研究科 准教授 訪問看護の実際； 中野 美佳 訪問看護ステーションふくふく管理者 緩和ケア認定看護師</p> <p>2.医療機関と地域との連携； 永井 貴子 新潟医療生活協同組合木戸病院地域包括部 部長 在宅療養を支える地域ケアシステム； 岡田 智子 新潟市地域包括支援センター山潟 保健師</p> <p>3.在宅療養生活の支援； 中野 美佳 同上 在宅における診療； 阿部 行宏 山の下クリニック 院長</p> <p><b>【施設実習】</b> 訪問看護ステーション管理者等</p>				
内容・方法	<p><b>【講義】</b> 1日合計5時間の講義、グループワーク、演習</p> <p><b>【実習】</b> 調整した施設において、オリエンテーション、同行訪問、まとめ等</p>				
結果・評価 （受講者の 意見感想 含む）	<p>○評価方法；全日程；出席時間、講義レポート・実習レポート 公開講座；アンケート（平均回収率 72.6%）</p> <p>○全日程修了証；下記の条件を全て満たした全日程受講者に修了証を発行する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・講義；全日程の 4/5 以上出席し、受講した講座のレポート提出</li> <li>・実習；2 日間実習し、実習レポート提出</li> </ul> <p>○受講者満足度；大いに満足 70% 満足 29.4 %</p> <p>○研修目的達成度；できた 64.7 % ややできた 35.3 %</p>				
企画の評価	<p>○目的・目標の妥当性 満足度・目標達成度ともに高い評価であり妥当であった。</p> <p>○講師・内容の妥当性 講師は大学教授、訪問看護ステーション管理者兼認定看護師、病院の地域包括部部長、地域包括支援センター保健師、在宅医療の医師等、地域医療を担う多職種で、地域連携の実際や入退院支援方法など具体的な講義であり妥当であった。</p> <p>○プログラム・時期の妥当性</p>				

	<p>76.5%が適切であったと回答。研修時期が5～10月、実習から研修最終日まで時間が空いてしまうと内容を忘れてしまう。土日の研修は参加しにくい。午後の研修が14時開始では終了が遅くなり困る等の意見もあった。</p> <p>○研修の事前準備・当日の運営など</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Zoom参加者は、GW時に参加者が分かれてしまうとハウリング等の不具合が生じるため同じグループとなるよう調整した。</li> <li>・事前アンケートを実施したことで受講者のレベルに沿った対応ができたと思われる。</li> </ul>
<p>課題</p>	<p>昨年度、理解度の低かった支援システムの実際を目標に挙げ、受講者に研修のねらいを周知した。アンケート結果では地域包括ケアシステムへの理解度は低いが、受講者は外来看護師や病院の入退院支援看護師等幅広く、地域との連携を理解し在宅療養へ移行するために必要な入退院支援研修に活用できる内容であり継続が必要。ACPや看取りの研修希望が多く、今後の在宅医療、訪問看護の拡大に向け研修ニーズに沿った内容へ講師と調整が必要。</p>
<p>担当者</p>	<p>訪問看護推進委員会</p>